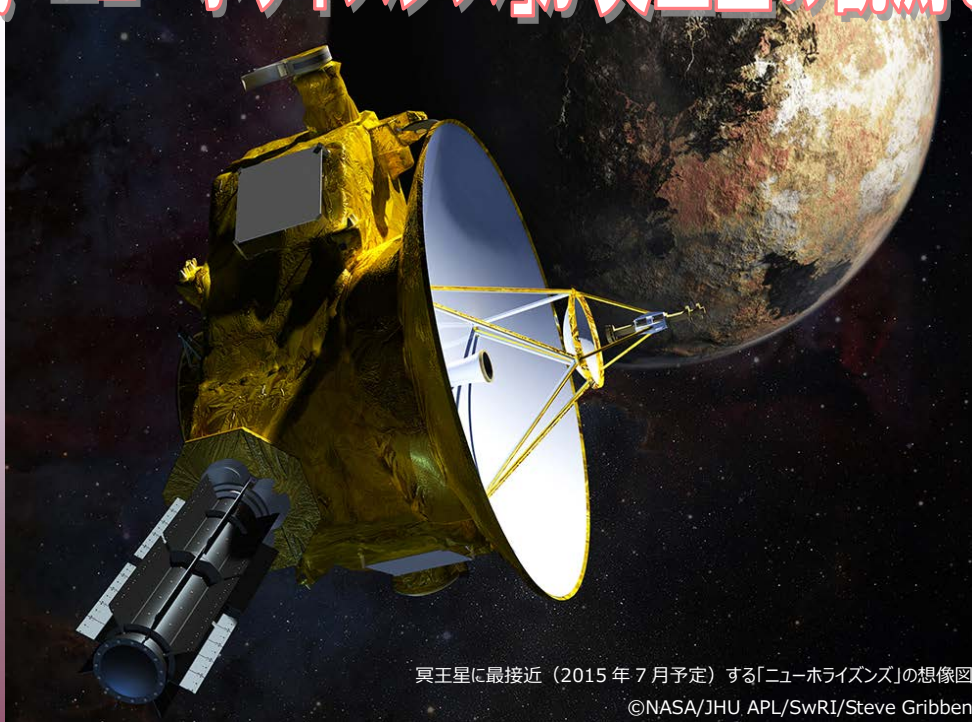


# 足掛け9年の太陽系の旅を終えて、ナゾの解明に挑む 探査機「ニューホライズンズ」が冥王星の観測を開始!



冥王星に最接近（2015年7月予定）する「ニューホライズンズ」の想像図  
©NASA/JHU APL/SwRI/Steve Gribben

7月に冥王星に最接近する予定。冥王星の鮮明な画像が初めて捉えられるため、新たな発見が期待される

2015年1月15日、米国航空宇宙局（NASA）は2006年に打ち上げられた探査機「ニューホライズンズ」が、足掛け9年間に渡る惑星間航行を終えて、冥王星の観測を始めたことを明らかにしました。

冥王星に探査機が接近して観測するのは史上初で、今年の7月には最接近する予定です。

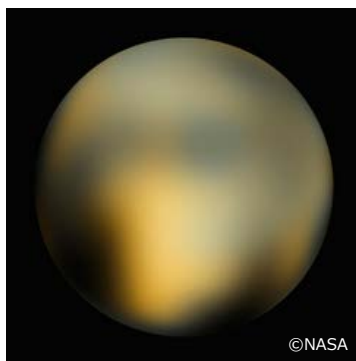
探査機に積まれた赤外線や紫外線などを捉える7種類の観測機器で大気や地形のほか、最大の衛星「カロン」について詳しく調べることになっており、謎の多い「冥王星」について新たな発見が得られることが期待されています。

冥王星軌道の通過後は、さらにエッジワース・カイパーベルト内の別の太陽系外縁天体を探査、20年頃太陽系を脱出する予定です。

## 冥王星について

冥王星は1930年に発見された岩石質の惑星で、氷と凍ったメタンでおおわれていると考えられている。1978年の衛星「カロン」発見により、その運動などから質量と直径は明らかになったが、月の約3分の2と小さく、約40天文単位※という遠くにあるためまだ謎が多い。2006年の国際天文学連合総会において「惑星」の分類から外れ「準惑星」と定義された。

※1天文単位＝地球と太陽の距離のこと。約1.5億km



ハッブル宇宙望遠鏡で撮影された冥王星



【準惑星】①太陽の周囲を公転している、②十分大きい(重い)ために、自分の重力でほぼ球形をしている、③その軌道の近くで多数の類似する天体が残っている、という定義を満たす天体。惑星とは③のみが異なる。冥王星のほかにケレス、エリス、マケマケ、ハウメアの4つがある。(上図のセドナは将来の候補)

さらに詳しく知りたい方はコチラ

## ●冥王星とそのなかまたち編

国立科学博物館「宇宙の質問箱」

<http://www.kahaku.go.jp/exhibitions/vm/resource/tenmon/space/pluto/pluto00.html>

Spacei 宇宙かわら版 2015年1月29日号

問い合わせ先：Spacei事務局（一般財団法人日本宇宙フォーラム）

ホームページ：<http://www.spaceinfo.jp/> お問い合わせ：<https://www.science-event.jp/event/spacei/contact/>

※特に断りのない限り日付は日本時間です。画像の出典：NASA/JHU APL/SwRI/Steve Gribben、国立科学博物館

Spacei